

桂・ニュース

KATSURA
NEWS

基本理念

私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な
基幹の中心的な医療を担当すると共に、さらに高次
の医療に対応できるよう努力します。

社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院

3
月
号

NO. 204
2013・3・1
毎月1回・1日発行
〒615-8256 京都市
西京区山田平尾町17
TEL.075-391-5811(代)

編集：広報課
印刷：(有)アクト

京都桂病院ホームページ
<http://www.katsura.com>

花粉症の治療について

春です。花は咲き、小鳥は歌うこのうらかな季節の到来にも、うんざりされている花粉症・アレルギー性鼻炎の方々もおられるのではないのでしょうか。春のアレルギーの原因物質としては2、3月頃がスギ、少し遅れて4月頃にヒノキの花粉が飛び始めます。主な症状は、鼻水、くしゃみ、鼻閉です。本来は予防的な内服によって症状を抑えることができるのですが、この記事が出る3月には既に発症している方も多いかと思いますので、主に薬による治療について書いていきます。現在、症状を抑えるのに用いられる主な薬には大きく分けて3種類、飲み薬が2種類と点鼻薬があります。もっともよく用いられるのが抗ヒスタミン薬という種類の薬で、各社から何種類も発売されています。主に鼻水やくしゃみに対して効果があるとされています。副作用に眠気がある薬剤があり、集中力の低下などを招く場合があります。人によって薬の効果や副作用の程度は差がありますので、効果を見ながら薬の種類を調節していくのがよい

かと思います。そのために、是非お近くの診療所・医院のかかりつけの先生を見つけられることをお勧めします。抗ロイコトリエン薬という種類の薬は鼻閉にも効果があるとされます。点鼻薬として、点鼻ステロイド薬がよく用いられます。鼻の中だけに直接スプレーして投与しますので、全身への投与と較べて副作用の心配が少ないとされています。具体的な治療としては、この3系統(+α)のどれか一部、あるいは全てを症状の出かたや強さなどに応じて使用します。また、そもそも花粉への曝露を減らすことによって症状を軽くすることも重要です。外出時にマスクをしたり、家に入るときに体をはいたり、こまめに掃除をしたり、といった日常的な注意を払いましょう。なお、原因となる物質に対する過敏性という体質を徐々に減少させることを目指した、「舌下免疫療法」という新しい治療法が、近い将来国内でも行えるようになる可能性があり、多くの医師の注目を集めていることを最後にお伝えしておきます。

耳鼻咽喉科
医師

上田俊雄

耳鼻咽喉科
部長

村井紀彦

京都桂病院

土曜コンサート

今回は、堀音父母の会の協力で、フルートとヴァイオリン、ピアノでお楽しみいただきます。
入院されている患者さんだけでなく、外来へ通院中の方・在宅で療養されている方・そして地域の皆様もぜひご鑑賞ください。

お楽しみに!

日時：**3月16日(土)** 午後2時～3時
会場：外来棟1階ロビーにて
曲目：
◆ 四季メドレー
◆ アメイジンググレイス
◆ 愛のあいさつ etc